

リソース・シリーズ
および自主出版物

平成6（1994）年

『国際人口開発会議における注釈のついた概要』（和文）

国連国際人口開発会議に向けて準備された国連事務総長による注釈のついた行動計画の草案“Annotated outline of the final document of the Conference: Noted by the Secretary General”の翻訳。国連国際人口開発会議ならびに国際人口開発議員会議に参加する国会議員および有識者のために翻訳した。草案段階の翻訳としては唯一の資料となった。

平成7（1995）年

『国際人口開発会議行動計画要旨』（和文）

国連人口基金（UNFPA）の“Summary of The Programme of Action of The International Conference on Population and Development”の日本語版。1994年カイロの国際人口開発会議(ICPD)の行動計画の要旨であり、同文書関連の出版物としては本邦初。

『国際人口開発議員会議議事録』（和文）

1994年カイロで国際人口開発会議(ICPD)に先駆けて開催された国会議員会議である国際人口開発議員会議(ICPPD)の議事録。同会議には117カ国約300名の国会議員が参加した。会議宣言文はICPD総会でも発表された。また、この会議を契機としてアフリカ・アラブ地域の国会議員フォーラムが準備された。

『世界人口・開発援助の現状－日本の貢献－』（和文）

UNFPAの“Global Population Assistance Report 1993”の翻訳と外務省の資料に基づく人口問題に対する日本の貢献の現状からなっている。世界規模での人口分野に対する援助の現状と、資金の流れを分析。我が国の人口分野への貢献も併載。

平成8（1996）年

『国際人口・社会開発議員会議(IMPPSD)議事録』(和文)

世界社会開発サミット(WSSD)にあわせ1995年3月にデンマーク・コペンハーゲンで開催された国際人口・社会開発に関する国会議員会議議事録。

『リソース・シリーズ1 国連人口会議20年の軌跡—ブカレストからカイロへ—』(和文)

黒田俊夫著：本協会理事であり日本大学人口研究所名誉所長である著者は国連主催の第一回人口会議であるブカレスト会議から1994年カイロの国際人口開発会議まですべての国連主催の人口会議に参加した。人口分野における世界的大家である著者がその変遷を概観し分析した。

Resource Series 2 “From Bucharest to Cairo—20 Years of United Nations Population Conferences—” (英文)

黒田俊夫著：好評をもって迎えられた「リソース・シリーズ1」の英文版。

『国際女性・人口・開発議員会議(IMPDPD)議事録』(和文)

第4回世界女性会議(FWCW)にあわせ1995年9月に東京で開催された国際女性・人口・開発議員会議(IMPDPD)の議事録。同会議には第4回世界女性会議に対する各国政府代表を中心とする国会議員が参加した。

平成9（1997）年

『リソース・シリーズ3 食料安全保障と人口：資料』（和文）

原著者：FAO/UNFPA およびボー・トン・スアン、グエン・ティ・タン
世界食料サミットへの準備として国連食料農業機関（FAO）が国連人口基金との共同研究された、「人口増加と土壌劣化」に関する論文の日本語版および、1996年5月にマレーシアのクアラルンプールで開かれた。人口と食糧安全保障に関するAFPPD（人口と開発に関するアジア議員フォーラム）特別運営委員会に提出されたベトナム国会社会委員会委員長グエン・ディ・タン議員とマグサイサイ賞受賞者である著名な農業学者ボー・トン・スアン博士の共著論文の日本語版。世界食料サミットに向けた資料として作成された。

『国際食料安全保障・人口・開発議員会議(IMPFSPD)議事録』（和文）

食料農業機関(FAO)主催の世界食料サミット(WFS)にあわせ、1996年11月にスイス・ジュネーブで開催された国際食料安全保障・人口・開発議員会議(IMPFSPD)の議事録。同会議の成果は世界食料サミットで公式に配布され、またWTOルジエーロ事務局長にも桜井新・会議議長から手渡しされた。

『未来のための食料』（和文）

国連人口基金出版物“Food for the Future”の日本語版。人口増加の抑制と食料確保を行うために女性の参加が不可欠であることを様々な具体例から解明している。

『リソース・シリーズ4 世界食料サミット1996年世界食料安全保障のためのローマ宣言および世界食料サミット行動計画』（和文）

国連食糧農業機構(FAO)によって“全ての人の飢餓からの解放”をテーマに1996年イタリアのローマで世界各国の元首を集め開催された「世界食料サミット(WFS)」のローマ宣言と行動計画の本邦初の翻訳であり多分野から同文書の日本翻訳の決定版として高い評価を受けた。

平成10（1998）年

『リソース・シリーズ5 Five Years from ICPPD ー国際人口開発議員会議から5年ー 人口と開発に関する国会議員会議宣言文』(和/英)

カイロの国際人口開発会議から5年目を迎えこの機会に人口と開発に関する国際議員会議・地域議員会議の宣言文を集成。今後の更なる発展のための資料とした。

『リソース・シリーズ6 Population Policy in Asia』(英文)

APDA が主催する「人口と開発に関するアジア国会議員代表者会議」で呼びかけを行ない各国の人口政策を各国政府責任者もしくは専門家が記述した。各国の政策に責任を持つ国会議員が関与している点で類例を見ない。

『リソース・シリーズ7 欠乏の時代の政治学 ー引き裂かれる水資源ー』(和文)

ワールド・ウォッチ研究所から刊行された Sandra Postel 著、Worldwatch Paper 132 “Dividing the Waters: Food Security Ecosystem Health and the New Politics of Scarcity” の邦訳。今後人類社会に大きな制約を与えるのが、淡水資源の不足である。増え続ける人口を支えるための農業生産もまた淡水資源の逼迫によって大きく制約を受けると考えられている。地球は水の惑星といわれるが飲料や農業用に安定して使用できる水の総量は地球上の水の 0.000008% に過ぎない。この水の総量は有史以来変わっておらず、人口が増加する分だけ一人当たり使用できる水の量はどんどん減少しているのが現実だがこのことが十分に認識されていない。人口増加を支えている地球の限界が目の前に迫っていることに警告を発している。
(日本語版著作権取得)

『人類のための環境』(和文)

UNFPA “Environment for People” の日本語版。人口問題、環境問題、開発問題を効率的かつ実質的に解決するためには、その3つの領域の間に架け橋を懸け、相関関係を重視することが必要であるとの視点に立って、主に環境と人口の間に横たわる様々な問題を例に、解決のために必要な視点、方法、手段を探っている。

平成 1 1 (1999) 年

Resource Series 8 Parliamentarians' Activities on Population and Development –History of Parliamentarians' Activities and Its Findings (英文・一部スペイン語)

1999年2月ハーグの国際フォーラムに合わせて開催された「国際人口開発会議評価のための国会議員フォーラム (IFP)」のために準備された出版物である。この出版物の中には 1994年の国際人口開発会議以降の人口と開発に関するアジア議員フォーラム (AFPPD) を始めとし、アメリカ地域人口・開発国会議員グループ (IAPG)、アフリカ・アラブ地域人口開発議員フォーラム (FAAPPD)、ヨーロッパ地域の国会議員活動の成果である宣言文と、各議連の活動史を纏めたものである。地域の枠を超えて人口と開発に関する国会議員活動の成果が一覧に纏められた事はかつてなく、国会議員活動の地球規模での広がりをも象徴している。

『国際人口開発会議評価のための国会議員フォーラム (IFP) 報告書』 (和文)

1999年2月ハーグの国際フォーラムに合わせて開催された「国際人口開発会議評価のための国会議員フォーラム (IFP)」の報告書である。同会議には 103カ国からおよそ 210名の国会議員が参加した。同会議では国際人口開発会議から 5年間の進捗状況とその進展を阻む障害について熱心な討議が行なわれ、人口と持続可能な開発を一貫した視点で扱う事を強く求めた「国際人口開発会議評価のための国会議員フォーラム・ハーグ宣言」が採択された。この内容は会議事務総長を務めた桜井新 AFPPD 議長の手によって、ハーグの国際フォーラムならびに 3月にニューヨークで開催された準備会議の場でも発表された。

リソース・シリーズ 9 『第 21 回国連特別総会特別委員会報告書「付録」 --国連人口開発会議行動計画のさらなる実施に向けた主な行動--』 (和文)

1999年6月30日～7月2日にかけて、ニューヨークの国連本部で開催された「国際人口開発会議から 5年評価のための国連人口特別総会報告書」日本語版。同会議では、国際人口開発会議 (ICPD) から 5年を経て、その進捗を妨げる障害、エイズなどの予想以上の蔓延など、時代の変化をとり入れ、行動計画を実施する上で必要となる指標や障害を解消するための具体的行動などを国連加盟国が国連総会の場で協議し確認した。

平成 1 2 (2000) 年

『人口と開発に関するアジア議員フォーラム第 6 回大会』(和文)

世界最初の人口と開発に関する議員フォーラムである「人口と開発に関する議員フォーラム (AFPPD)」が 3 年に一度開催する大会の議事録。AFPPD は 1981 年に設立されてから世界の指導的な人口と開発に関する地域議員活動として、アジアのみならず世界レベルでも人口と開発に関する国会議員活動の指導的な役割を担っている。その提唱者であり創設者の佐藤隆・元農水大臣と桜井新・現議長の出身地である新潟県で開催された AFPPD 大会の報告書 (日本語版)。同大会では 1000 年期最後の大会として 2000 年期に向けたアジア・太平洋地域の人口・開発問題に関する国会議員の活動方針を協議しその成果は「新潟宣言」にまとめられた。

『リプロダクティブ・ライツ・チャート 2000』(和文)

国際家族計画連盟 (IPPF) が作成した “reproductive rights 2000” ウオールチャートの日本語版。世界各国のリプロダクティブ・ヘルスやライツに関連する政策の現状や進捗状況を一覧にしたものである。英語版ではアルファベット順になっていたものを地域別・あいうえお順に編集を加え読者の便を図っている。また各国の国名表記は外務省の表記に準拠した正規名称を用いている。

『女性のエンパワーメントに向けて』(和文)

UNFPA 出版物 “Working to Empower Women – UNFPA's Experience in Implementing the Beijing Platform of Action” の日本語版。“女性のエンパワーメント” は国際人口開発会議 (ICPD) 行動計画において人口問題の解決を果たす上での重要なカギとなる概念として位置付けられた。また中国北京で開催された第 4 回世界女性会議では中心的な概念となった。第 4 回世界女性会議から 5 年を踏まえ人口・女性問題に共通する女性のエンパワーメントを中心に ICPD 行動計画ならびに女性会議の行動綱領実施と関連する UNFPA の活動を具体的に紹介している。

平成 13 (2001) 年

『人口問題ブリーフィングキット 2000 年度版』(和文)

UNFPA 出版物 “Population Issues Briefing Kit 2000” の翻訳。人口問題は“数”の問題ではなく生きて生活している“人々”の問題であるという視点から現在の人口分野における様々な課題とその問題への取り組みを概観したものでカイロの行動計画実施の意味を説明している。

『興四海野春風 一財団法人アジア人口・開発協会 20 年の歩み一』

財団法人アジア人口・開発協会 (APDA) 事務局には岸信介元首相の手になる『興四海野春風』の額がある。これは APDA 設立時に、“APDA の活動が世界中に暖かい春風を興して欲しい”という願いをこめて揮毫されたものである。APDA は設立以来 20 年にわたって、様々な活動を繰り広げてきた。本書は 2002 年に 20 周年を向かえる APDA の 20 年間の歩みを集成したものである。本書には APDA 設立以前からの人口と開発問題にかかわる日本国の国会議員活動と APDA 設立以降の様々な行事が事業別年度別で記載されている。さらに AFPPD 設立の直接の契機となった人口と開発に関するアジア国会議員会議 (ACPPD) から 1984 年の世界人口会議、国際人口開発議員会議をはじめ、2001 年の「水資源—食糧安全保障—人口に関するアジア—アフリカ議員会議」まで APDA-AFPPD が中心となって開催した国際会議の宣言文も収められている。今後の日本国の人口問題に対する取り組み並びに APDA 活動の基盤となるものである。

平成 14 (2002) 年

『人口問題ブリーフィングキット 2001 年度版』(和文)

UNFPA, “Population Issues Briefing Kit 2001”の翻訳。2000年に国連本部で開催されたミレニアムサミットで採択されたミレニアム開発目標の中に人口問題を位置付け、新たな UNFPA の人口問題への取り組みを示し、人口分野における様々な課題とその問題の現状と取り組みを概観した。

『人口問題を考える—人類生存の条件と人類社会の未来—』

APDA 創立 20 周年を記念して開催された公開フォーラムの議事録。この公開フォーラムでは、日本が世界に誇る各分野の権威者から、宇宙物理学、生物学の視点から生命倫理の視点まで様々な視点から人口問題を概観してもらい、なぜ人口問題が人類の将来にとって決定的に重要なのかを論じた。私達が生きるこの世界における人口問題の意味を様々な視点から論じた類書はほとんどなく、好評をもって迎えられた。

Population Issues — The Conditions of Human Survival and future of our Society

リソース No.27 『人口問題を考える—人類生存の条件と人類社会の未来—』の英語版。

平成 15 (2003) 年

ODA Quarterly 2003 on Population and Development (英語版)

2003 年度に 4 半期ごとに刊行された ODA クォーターリーの創刊号から 4 号までを英訳したもの。ODA クォーターリーは全国会議員に対して人口と開発問題に対する日本国からの拠出の重要性を訴えかけるために作成されたもので、財団法人家族計画国際協力財団 (JOICFP) と UNFPA 東京事務所との協力で発行されている。

「地球の人口と水」

UNFPA の刊行物である *Global Population and Water* の日本語版。同書は 2003 年 3 月に京都・大阪・滋賀で開催された第 3 回世界水フォーラムにおける議論に資するために作成されたもので、食料生産、安全な水供給、公衆衛生などの側面から水と人口問題とかわりを包括的に扱ったものである。

平成 16 (2004) 年

ODA Quarterly 2004 on Population and Development (英語版)

2004 年度に 4 半期ごとに刊行された ODA クォーターリーの第 5 号から 8 号までを英訳したもの。ODA クォーターリーは全国会議員に対して人口と開発問題に対する日本国からの拠出の重要性を訴えかけるために作成されたもので、財団法人家族計画国協力財団 (JOICFP) と UNFPA 東京事務所の協力で発行されている。それぞれのテーマは、第 5 号「ICPD+10」、第 6 号「人口、持続可能な開発と環境」、第 7 号「人口、持続可能な開発と貧困と ODA」、第 8 号「ミレニアム開発目標と人口」。

ミレニアム開発目標の達成に向けて-人口とリプロダクティブ・ヘルスが正否の鍵を握る-人口・開発戦略-

UNFPA から刊行された、Achieving the Millennium Development Goals—Population and Reproductive Health as Critical Determinants—Population and Development Strategies #10 の日本語版。ミレニアム開発目標と人口関連の目標を関係付け、ミレニアム開発目標とこれまでの達成を図で示し、ミレニアム開発目標を達成するためには今後どのような努力が必要になるかを具体的に示している。

平成 17 (2005) 年

人口から見た安全保障-冷戦後の人口と内戦-

ポピュレーション・アクション・インターナショナルから刊行された、The Security Demographic —Population and Civil Conflict After the Cold War—の日本語版。これまで安全保障に影響を与えるとは余り考えられてこなかった人口学的な要因、例えば“高い人口増加率”や“若者人口の急激な増加”、“都市人口の急速な膨張”、“HIV/エイズの蔓延”などが、内戦などの安全保障を揺るがす要因となることを統計的なデータを使い包括的に分析したものである。本書はポピュレーション・アクション・インターナショナル＝元の人口危機委員会 (Population Crisis Committee) の創設者でもあり、マッカーサー元帥による GHQ の占領政策を改め、戦後日本発展の大きなきっかけを作ったドレーパー将軍に捧げられている。ドレーパー将軍は人口問題が世界の安全保障に与える影響にいち早く注目した人である。将軍は UNFPA の設立を支援し、1974 年にルーマニアのブカレストで開催した「世界人口会議」の主導者の 1 人である。このブカレスト会議は人口問題解決のために政府の参画を得た初めての国連主催の国際会議となった。この会議が 1994 年にエジプトのカイロで開催された「国際人口開発会議 (ICPD)」の直接のルーツとなることは多くの人に知られている。世界ではじめて超党派の人口問題に関する国会議員グループが日本で形成されたのもドレーパー将軍の働きかけによる。ドレーパー将軍と岸信介首相の尽力で、「国際人口問題議員懇談会 (JPFP)」が設立され、その活動を支えるために、本協会も設立された。その意味で、本協会にとっても非常に重要な意味をもつ出版物となっている。

平成18（2006）年

ODA Quarterly 2005 on Population and Development (英語版)

2005年に4半期ごとに刊行されたODAクォーターリーの9号から12号までを英訳したもの。ODAクォーターリーは国会議員に対して人口と開発問題に対する日本国からの抛出の重要性を訴えかけるために作成されたもので、財団法人家族計画国際協力財団（JOICFP）、UNFPA 東京事務所、NPO2050 の協力で発行されている。

広島から未来へのメッセージ～人類と地球の平和な未来のために～人口・環境・エイズ・国際協力

広島大学・国連人口基金（UNFPA）・国際家族計画連盟（IPPF）後援のもと、2006年10月に広島県広島市でAPDAが開催した国内セミナーの講演を収録。「平和」をキーワードに、環境、HIV／エイズなどの感染症、地方からの国際協力といった幅広い視点で人口・環境分野の現状と課題を取り上げ、持続可能な開発と人口問題の解決、および国際協力の重要性を説いた。

平成19（2007）年

ODA Quarterly 2006 on Population and Development (英語版)

2006年から4半期ごとに刊行されたODAクォータリーの13号から16号までを英訳したもの。ODAクォータリーは国会議員に対して人口と開発問題に対する日本国からの抛出の重要性を訴えかけるために作成されたもので、財団法人家族計画国際協力財団（JOICFP）、UNFPA 東京事務所、NPO2050 の協力で発行されている。

ODAクォータリー 2003-2007 合本版

2006年から4半期ごとに刊行されたODAクォータリーの13号から16号までを英訳したもの。ODAクォータリーは国会議員に対して人口と開発問題に対する日本国からの抛出の重要性を訴えかけるために作成されたもので、財団法人家族計画国際協力財団（JOICFP）、UNFPA 東京事務所、NPO2050 の協力で発行されている。

持続可能な開発における人口分析、目標、行動、現実

2002年に開催された「持続可能な開発に関する世界首脳会議（ヨハネスブルグサミット）」に向けて人口と開発に関するグローバル・サイエンス・パネルが発表した報告書の翻訳版。持続可能な開発を考慮するにあたり「人口」がどのような役割を果たすのかを分析し、その重要性を啓発することを目的として発表された。本書では、人口増加や人口分布、人口移動などの人口学的要素を考察することの重要性が強調されるとともに、人間の権利、能力、機会に焦点を当てることで個人、社会そして地球環境に多面的な恩恵が与えられるとしたカイロ会議の成果を受けて、持続可能な開発の達成には人口に対する考察が欠かせないとアピールしている。

平成 2 0 (2008) 年

ODA Quarterly 2007 on Population and Development (英語版)

2007 年から 4 半期ごとに刊行された ODA クォーターリーの 17 号から 20 号までを英訳したもの。ODA クォーターリーは国会議員に対して人口と開発問題に対する日本国からの拠出の重要性を訴えかけるために作成されたもので、財団法人家族計画国際協力財団 (JOICFP)、UNFPA 東京事務所、NPO2050 の協力で発行されている。

平成 21 (2009) 年

ODA Quarterly 2008 on Population and Development (英語版)

2008 年から 4 半期ごとに刊行された ODA クォーターリーの 21 号から 24 号までを英訳したもの。ODA クォーターリーは国会議員に対して人口と開発問題に対する日本国からの拠出の重要性を訴えかけるために作成されたもので、財団法人家族計画国際協力財団 (JOICFP)、UNFPA 東京事務所、NPO2050 の協力で発行されている。

人口、開発、食料を考える 佐藤隆

人口爆発が世界中で懸念された 1970 年代、貧困にあえぐアジア地域に対する支援を主な目的として、人口と開発問題に関する超党派議員連盟「国際人口問題議員懇談会」が世界で初めて日本で創設された。以後、同様の議員連盟の活動は、各国・各地域に広がり、現在では世界のすべての地域をカバーし、世界中の議員がこの問題に対し連携する仕組みが出来上がっている。今回、刊行した『人口・開発・食糧を考える』は、日本の議員連盟の設立発起人の一人であり、世界各地域間の連携構築に尽力した佐藤隆元農水大臣 (元 APDA 理事長) の著書を再録したもの (初版本は 1987 年、日本生産性本部刊)。日本国内の議員グループ設立から活動が世界に拡大していくまで、多くのエピソードから「国際人口問題議員懇談会」の活動の歴史をたどることができる。再録に伴い、改めて解説を付した。